

6 スマートシティの目標・方向性と 基本方針

6 スマートシティの目標・方向性と基本方針

■現状

- 駅周辺に都立大学、商業業務・公共施設の集積
- ニュータウンの計画的なインフラ（住宅団地、歩車分離ネットワーク、公園）

■課題

- 丘陵地の高低移動の負担軽減
- 住宅団地から駅・バス停までのアクセス交通の確保
- 鉄道とバス・タクシー・自転車等の円滑な乗換
- バス、タクシー、自転車等の地区内の快適な移動
- ICTや先進的モビリティサービスを活用した人や環境にやさしい地域交通の確保

- まち案内等情報発信によるアクセス向上
- 住民や来街者の回遊性・滞留性向上による賑わい創出
- 駅前及び周辺地区での効率的な荷物搬送・物流の実現

- コロナ禍における三密回避のための分散化
- 誰もが安心して快適な地域の多様で即時性のある情報の活用や高度化
- 多様な交流や連携を促進する機会や場の創出
- 低炭素で環境にやさしく安全安心な質の高い地域拠点の形成

■目標（案）

都立大学や民間企業、地域住民をはじめ、多様な主体がまちづくりと連携し、最先端の研究とICT活用による住民生活の向上が融合した持続可能なスマートエリア

□目標年次

- 短期：～2022年度まで
- 中期：～2030年度まで
- 長期：～2040年度まで

■方向性

スマートなまち

先端技術活用や産学公連携により、持続可能な環境が創出されるまち

憩えるまち

多機能が駅前に集積し、歩きやすく賑わいが生まれ憩えるまち

多様性のあるまち

国内外の多様な人々が集い交流し、安心・快適に暮らせるまち

■先端技術の活用の基本方針

- ① 高低差移動の負担軽減、住宅地のアクセス向上による交流の促進
- ② 地区内交通の円滑化や回遊性の向上による地域活動の活発化
- ③ 環境にやさしい交通の利用による低炭素化
- ④ 交通情報の統合と一元化による安全で快適な移動の向上

- ① ICT等の新技術の活用による多様なリアルタイム最新情報提供
- ② 駅前エリアでの最先端技術・サービスによる地区内商業の活性化
- ③ 周辺エリアを含む物流や移動サービス向上によるまち全体の生活利便性の向上及びまちの賑わい創出

- ① コロナ禍における三密回避
- ② 新たな働き方や多様なライフスタイルを支える職住学環境づくり
- ③ 人が集う、安心して住み、働き、憩える環境づくり
- ④ 新技術を活用した災害に強いまちづくりや地域コミュニティの形成
- ⑤ 低炭素で自立分散型エネルギー環境づくり
- ⑥ 都立大学等と連携した新たな技術開発やライフスタイルの創造